



藍原 章 議員

認知症の人に寄り添った地域社会の構築について

※
**地域における認知症ピアサポート
環境の整備は**

問 認知症があっても安心して地域で暮らし続けられる「チームオレンジ」の立ち上げを進めていきます

答 健康福祉部長
一人歩き事前情報登録の推奨や見守りネットワーク事業として、市内の79の事業所や団体と協定を結び、速やかに対応できる仕組みを構築しています。これに加え、GPSの初期導入費用の一部を助成する制度も設けています。

問 認知症の知識および認知症の人に関する理解を深める取り組みの推進について問う。

答 健康福祉部長
市民の方に認知症の正しい知識習得のため、認知症サポーター養成講座を実施しており、これまでに市内の自治会や団体、小・中学校など1万3千人を超える方が受講されました。また、認知症相談ガイドブックを作成し、認知症の症状や対応のポイント、対応可能な医療機関などを掲載し、認知症の早期対応と相談に活用しています。

問 地域における認知症ピアサポート環境の整備について問う。

答 健康福祉部長
認知症があっても安心して地域で暮らし続ける地域づくりの一環として、「チームオレンジ」の立ち上げを進めています。認知症の方やそのご家族などがメンバーとなり、認知症の当事者の見守りや話し相手、ご家族の困りごとへの対応など、早期の段階から支援活動を行う役割を担っており、介護負担の軽減や心理的負担の軽減に努めます。

問 認知症の人の尊厳ある暮らしを守るケア技法であるユマニチュードの普及について問う。

答 健康福祉部長
平成29年度に医療・介護・福祉の従事者を対象に、認知症の理解を深め、優しさを伝えるケア技術として、ユマニチュードの研修会を開催しました。

今後におきましても、ユマニチュードの考え方を踏まえ、認知症の当事者の立場に立ったケアや対応の研修を重ねていきます。

今後におきましても、ユマニチュードの考え方を踏まえ、認知症の当事者の立場に立ったケアや対応の研修を重ねていきます。

その他の質問

災害時の「福祉的な支援」および保健衛生環境の整備について

※認知症ピアサポート：認知症の方やその家族がピア（仲間）として悩みや体験を共有し、互いに支え合う仕組み